

「チーム学校」で 取り組もう！ SSR



※ 本書の表紙はSSRのキーワードを基に、生成AIにて作成しました。

SSR（スペシャルサポートルーム）とは

校内教育支援センターのことで、学校には行けるけれど自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる部屋のことです。

目次

目次

はじめに	・・・	1
1章 SSRの取組に向けて	・・・	2
SSRとは	・・・	3
「チーム学校」の支援体制	・・・	4
会議の実施		
アセスメントに応じたSSRの役割	・・・	5
SSR利用開始までの流れ（例）		
「SSR運営」チェックリスト	・・・	6
2章 3つの要素に関する支援の充実	・・・	7
本研究の3つの要素		
① 「人とのつながり」に関する支援	・・・	8
～スモールステップを意識した人との関わり～		
② 「安心できる環境づくり」に関する支援	・・・	10
～サードプレイスとしての空間づくり～		
③ 「周囲の理解」に関する支援	・・・	12
～児童を支える体制の構築～		
3章 支援の道しるべ	・・・	14
SSRに関する用語集	・・・	16
参考資料	・・・	17

はじめに

全国的な不登校児童生徒数増加の状況を受け、その支援を充実するため、平成28年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育機会の確保等に関する法律」が制定されました。それを受け、平成29年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針」が示され、令和元年には「不登校児童生徒への支援の在り方について」の通知が発出されました。

この通知では、「教職員研修等を通じ、**全ての教職員が**法や基本指針の理解を深め、**個々の不登校児童生徒の状況に応じた支援等を行うことができるよう努める** (以下略)」とされています。

滋賀県においても「しがの学びと居場所の保障プラン～安心して学び育つための、不登校の状態にある子ども支援～」(滋賀県 令和6年3月)の中で、不登校の状態にある児童生徒のうち外出できる児童生徒への支援策として校内教育支援センター(以下、SSRという。)の活用が位置付けられており、支援にあたり重視する視点の一つとして **学校をみんなが安心して学べる場所にすること** が示されています。

また、「滋賀の子ども達の社会的自立を支える 学校教員向け不登校の理解と対応リーフレット」(滋賀県教育委員会 令和6年4月改訂)では、**アセスメントで個に応じた支援を構築すること**の重要性が示されています。

このように、今後各学校においてSSRの運営を進めるうえで、SSRについての知見をもった特定の担当者のみが対応するのではなく、どの教職員であっても状況に応じた適切な支援ができ、児童にとって学校が「安心・安全な居場所」となるよう組織的に対応することが求められています。

本書は、滋賀県教育委員会の「令和6年度生きる力を育むモデル校『スペシャルサポートルーム (SSR)』推進事業」において、実施1年次となる7小学校の協力を得て当センターの研究の成果として作成したものです。研究における実践事例を中心に、これからSSRの運営を進めていく学校や教職員の皆様が、参考にしていただけることを目指しました。

SSRを利用する児童の様子、周囲の環境や状況など実態は様々であり、事例の通りに取り組むと必ず効果が出るというものではありませんが、児童が安心して学校とつながるための手立てを考えていただく際の一助としていただければ幸いです。

1 章 SSRの取組に向けて

SSRを運営するにあたり、押さえておきたいポイントについて示しています。研究員、研究委員が実践の中で大切にしてきた観点の一例です。

★SSRの位置付けの共通理解

- ◇ SSRの位置付けについては、年度当初に校内で共通理解を図りましょう。

★「チーム学校」の支援体制

- ◇ 学校全体で組織的に不登校児童を支援しましょう。また、児童の現状を把握し支援するため、SCやSSW、市町の教育支援センターやフリースクール等と連携、情報共有を行いましょう。児童の担任やSSR担当者だけに業務が偏らないよう、組織的に対応しましょう。

★児童のアセスメントとプランニング

- ◇ 支援の必要な児童については、教育相談等の定例会議やケース会議で情報共有を図り、適切な支援について協議しましょう。
- ◇ プランニングをする際は、SCやSSW等も交えて複数の教職員で丁寧に児童のアセスメントを行いましょう。
- ◇ 児童と保護者の思いを聴き取りましょう。
SSRの利用に際しては共通理解を図り、目標の設定を行いましょう。

★学習空間の整備

- ◇ SSRを利用する児童の状況に応じて、部屋の整備を行いましょう。

詳細については次ページ以降を御参照ください。

SSRとは

学校には行けるけれど自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる部屋のことです。

登校や教室復帰といった結果のみを目標とせず、児童の**社会的自立**を見据え、自己決定できるよう支援します。支援のスタンスや関わり方については校内で共通理解を図り、**全ての教職員、そして関係機関と一丸となり、「チーム学校」で関わる**ことが大切です。

うちの学校では別室を設けて、個別に勉強をさせているけれど…
SSRと何が違うの？



従来の別室では教室復帰を目指すことが多かったんだ。SSRの大前提は、児童にとって「**安心な居場所**」であることなんだ。学習することを過度に勧められたり、「教室に戻れるよう頑張ろう」等を言われたりすると、それが負担になり、登校のしづらさにつながってしまうこともあるよね。



ならば、SSRでは、児童が望むことを好きなようにさせるということ？

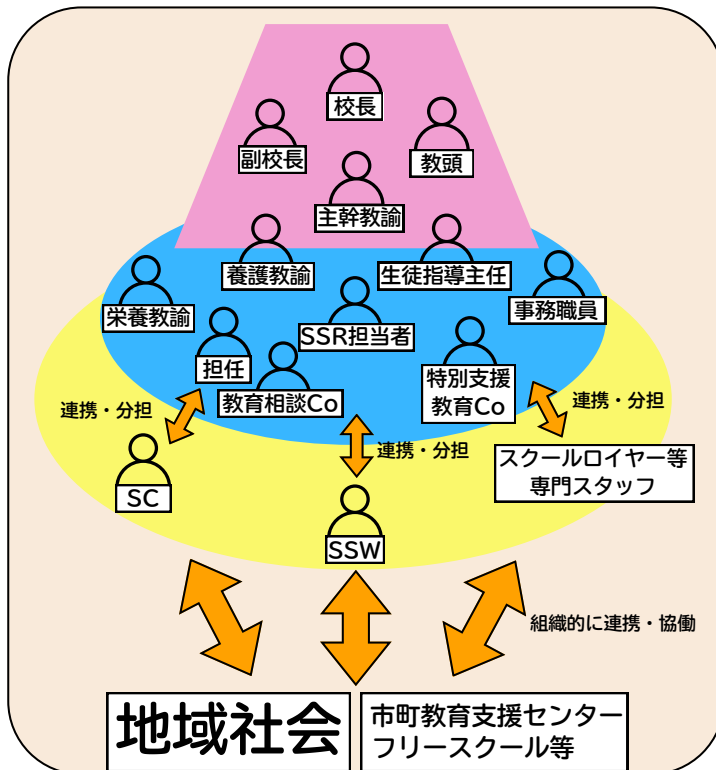


SSRは学校の中の**学びの場所**だから、人に迷惑をかけることや、学びに向かうための**基本的なルールづくりは必要**だよ。ただし、ルールについても教師が主導して「こうあるべき」と決めるのではなく、児童と一緒に考えるなど、SSRは**社会的自立を見据え、自己決定する力を育む場**という認識が重要なんだ。



「チーム学校」の支援体制

「チーム学校」のイメージ図



生徒指導提要「チーム学校における組織イメージ」
を基に本研究にて作成

不登校支援の基本は、
・見取り(未然防止・早期発見)
・アセスメントとプランニング
・全教職員で共通理解 です。

SSR担当者や学級担任だけでなく、
管理職、養護教諭、教育相談Co（コー
ディネーター）、生徒指導主任、特別支
援教育Co（コーディネーター）、学年
主任、SC、SSW等、多くの者が支援に
関わることが重要です。また、市町教育
支援センターやフリースクール等の関係
機関とも連携を図り、「**チーム学校**」で
対応することも重要です。

不登校児童の担任やSSR担当者だけに
業務が偏らないよう、**チームで動く**
ことが大切だよ！



会議の実施

定例会議、ケース会議を適宜実施します。開催の頻度や形態、参加者等については各学校により異なりますが、不登校支援を進めるうえで情報共有は非常に重要です。

定例会議（ケース会議を含む）

- 実施頻度：週1回～月1回程度
- 参加者：管理職、SSR担当者、担任、学年担当、教務主任、養護教諭、特別支援教育Co（コーディネーター）、教育相談Co（コーディネーター）、生徒指導主任、通級指導担当 等
- 専門家：SSW、SC
- 協議内容：不登校児童、不登校傾向のある児童についての情報共有、課題の整理、支援の仕方、役割分担について

アセスメントに応じたSSRの役割

実践校の取組を参考に、児童の状態に応じたSSRの役割について一例を示します。なお、児童の状態や背景は個々に異なるため、複数の目でアセスメントを行ったうえで、学校としてどのように支援するか検討してください。

SSRの役割(例)

	ケースA	ケースB	ケースC	ケースD	ケースE
現在の状態	一時的にSSRを利用する児童	SSRと学級を行き来することができる児童	集団に抵抗があり基本的にSSRで過ごす児童	週に2～3日登校の児童	登校に課題がある児童
当面の目標	集団の中で安定して過ごすこと	学級の中で過ごす時間が増えること	学級と関わること	学校とつながること	SSR担当者となつながること
SSRの役割	安心感の担保 (お守り代わりのSSR)	気持ちの切り替え (切り替えのためのSSR)	安心できる小集団 (充電のためのSSR)	学校内の居場所 (安心スペースのSSR)	SSR担当者との関係づくり (つながるためのSSR)

アセスメントを基に定期的に目標を見直し、共通理解を図ることが重要です。学期末などに児童と保護者と懇談を実施し、振り返りと次の目標について話し合しましょう。

SSR利用開始までの流れ(例)

①児童についての情報共有（担任とSSR担当者間、ケース会議等）
児童の様子を見取り（アセスメント）、情報を共有しプランニングする。
SSRの利用が望ましいと判断した場合②へ

②懇談の実施（担任、SSR担当者、保護者、児童）
懇談を通して現状を把握し、児童と保護者の思いを聴き取る。

③SSRの体験を実施する
体験を通して、児童の思いを聴き取る。

④児童、保護者の意向確認
利用を希望するかどうかが意向の確認を行う。

SSRの利用スタート

「SSR運営」チェックリスト



要素	ポイント、観点の例	◎ ○ △
人とのつながり	児童のアセスメントとプランニングを定期的に行っていますか。	
	児童の実態に応じて、SSTや人と交流する機会を設定するなど、人とつながるための支援や活動の工夫を行っていますか。	
安心してできる環境づくり	児童、保護者と一緒に目標の設定を行っていますか。	
	SSRの目的と利用のルールを児童、保護者と確認していますか。	
	児童の実態に応じて、個別学習エリアや協働学習エリアの設定、パーテーションの活用など学習空間の工夫をしていますか。	
周囲の理解	教職員への研修会や啓発を行っていますか。また、周りの児童がSSRについて学ぶ機会を設定していますか。	
	複数の教職員で不登校児童に関する連携、情報共有を行っていますか。	
	不登校児童の担任やSSR担当者だけに業務が偏らないよう、組織的に対応していますか。	
	SCやSSW、関係機関（市町の教育支援センターやフリースクール等）と連携、情報共有を行っていますか。	
	不登校児童宅への連絡や家庭訪問を定期的に行っていますか。	

チェックリストは一例です。実情に応じて追加・改変し、御活用ください。

2章 3つの要素に関する支援の充実

本研究の3つの要素

本研究ではSSRを安心して成長できる居場所とするために、児童や保護者の思いを十分に尊重したうえで、3つの要素を軸として支援を充実させることを目指しました。

① 人とのつながり

連絡帳や記録簿を通した
日々のアセスメント

SST（ソーシャルスキルトレーニング）

人と交流する機会の設定

スペシャルサポートルーム

SSR

学びの空間の工夫

自己決定できる
学習の場づくり

② 安心できる
環境づくり

教職員の意識の向上

児童が学ぶ機会の設定

連携、情報共有できる
組織づくり

保護者との連携

③ 周囲の理解



次のページからは、3つの要素に関する支援について、各実践校での取組事例を紹介するよ。
各校の取組を参考にして、自校の取組にも活用してみてね。

①「人とのつながり」に関する支援 ～スモールステップを意識した人との関わり～

「人とのつながり」に関する支援では、日々のノートの活用、児童の実態に応じてSST、他者と交流する場の設定を行いました。

野洲市立北野小学校

コミュニケーション能力を育むためのSST

コミュニケーション能力を育むためのSSTの一環として、自分の気持ちを整理し、言葉で表しその言葉と感情を対応できるようにするため、「こんな言葉を使ってみよう！」の活動に取り組みました。

自分の心情をうまく言葉で表せない児童にとっては、指差しだけで他者に思いを伝えることができるという安心感にもつながり、有効な手立てとなりました。

「あおぞらノート」の活用

児童が今の自分の状態を知ることや、教職員が丁寧なアセスメントをするためのツールとして、「あおぞらノート」を作成し、児童の状態や変容を記録として残しました。健康観察欄では、児童が気持ちを点数化したり、その理由について指導者に伝えたりできるようにしました。継続して活用することで、教職員は児童の来室時と退室時の児童の状態の変化を見取ることができ、児童のアセスメントに活用することができました。

時間	クラスの予定	自分の予定	場所	学習したこと
1	音	クアレスト	教室・相談室	
2	理	クアレスト	教室・相談室	
3	休	休	教室・相談室	
4	算	自由	教室・相談室	
5	国	算	教室・相談室	
6	国	算	教室・相談室	
7	算	算	教室・相談室	
8	算	算	教室・相談室	
9	算	算	教室・相談室	
10	算	算	教室・相談室	
11	算	算	教室・相談室	
12	算	算	教室・相談室	

「こんな言葉を使ってみよう！」 児童が記入した「あおぞらノート」の活用

草津市立渋川小学校

傾聴する

児童、保護者の声に丁寧に耳を傾け、焦らず長期的視点で話し合うことで信頼関係の構築を目指しました。また、児童には「必ずしも教室に行かなければならないというわけではない」と伝えることで、児童の心理的な安心、安定につながりました。SSRでエネルギーを溜めた児童は、自ら「教室で勉強してみる！」と口にし、SSRから外に気持ちが向く様子が見られました。

複数で関わる 懇談の実施

保護者との懇談では、学級担任からは教室での様子について、SSR担当者からはSSRで過ごしている様子について伝えました。そして今後の目標等についても話し合いました。また、必要に応じてSSWにも同席して、専門的な視点から助言をもらうなど、それぞれ役割分担をして児童の支援に努めました。

守山市立河西小学校

児童同士の関わり

創作活動を通して、自分の思いを表現したり、教職員や友達と協働で創作したりすることで、人とのつながりが生まれ、自分から人に関わろうとする様子が見られるようになりました。

また、児童が協働で製作した段ボールハウス（写真）は、児童にとってパーソナルスペースとなり、クールダウンの際に段ボールハウスの中に入ることによって気持ちを落ち着かせることにもつながりました。



児童が協働で創作した「段ボールハウス」

大津市立瀬田北小学校

表情カードの活用(SST)

コミュニケーション能力を育むためのSSTの一環として表情カードを活用しました。表情カードは教室に掲示したほか、常にどこでも児童とやりとりできるように教職員がカードを携帯して活用しました。

教職員が児童に口頭で今の気持ちや体調を尋ねると、黙り込んで返答がないこともあります。表情カードを提示しながら尋ねることで、カードの表情を見て自分の体調や気持ちと近いものを言葉で答えたり、表情イラストを指でさして伝えたりする姿が見られ、児童のコミュニケーションを図るきっかけとなりました。



表情カードの活用

彦根市立高宮小学校

「今日の学習ノート」の活用

児童が自分で決めたその日の予定を「今日の学習ノート」の表面に記入できるようにしました。

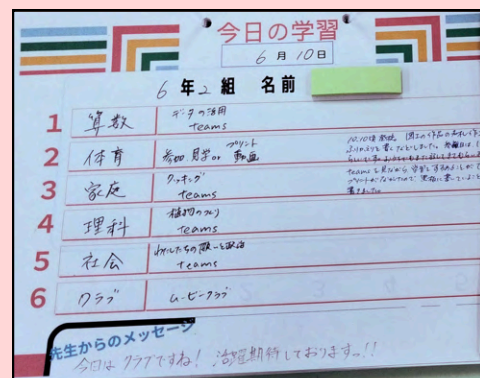
裏面には、自身のその日のがんばり度を数値で評価したり、振り返りを文章で書いたりしました。SSR担当者や担任とノートを通してやりとりすることで、交換日記のようになり、児童のモチベーションを高め、教職員との関係を深めることにつながりました。

ICT機器を用いた遠隔授業

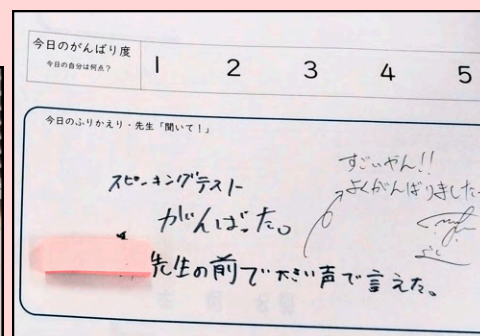
ICT機器を用いて在籍クラスとつなぎ、SSRにて授業を受けることができる環境を整備しました。このことを通して学級担任や友達とつながるきっかけとなりました。



ICT機器を用いた遠隔授業の様子



児童が記入した「今日の学習ノート」(表面)



児童が記入した「今日の学習ノート」(裏面)

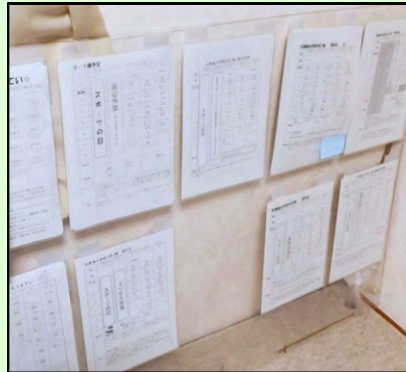
②「安心できる環境づくり」に関する支援 ～サードプレイスとしての空間づくり～

「安心できる環境づくり」に関する支援では、教室環境の工夫や教材の選定を行いました。また、心理的な安心につながるように視覚支援もしました。

湖南省立石部南小学校

週予定や月予定の掲示

SSRを利用する児童が在籍する各学級の週予定を掲示することで、学級の動きを踏まえて自己の学習予定を決定することができました。また、全校の行事を記入した月予定を掲示することで、児童は先の予定を見通すことができ、安心感につながりました。



各学級の週予定



SSRでの時間割

環境の工夫

床にじゅうたんを敷き、靴を脱いで利用できるようにし、学習や活動に疲れた時には、ソファで一時的に休憩できるようにしました。児童がリラックスできるように環境を整えたことで、身体的・心理的な安定にもつながりました。



SSRに設置されたソファ



全校の月予定

草津市立渋川小学校

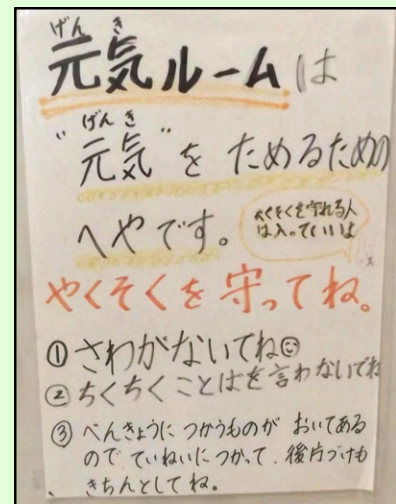
約束の掲示

SSRを利用する児童が安心して過ごすことができるように、教室のドアには利用時の約束を掲示するとともに、教職員間、児童間での共通理解を図りました。

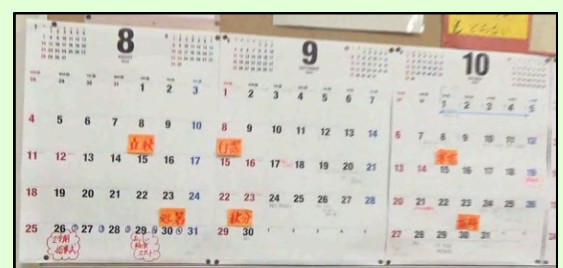
約束を徹底することで、利用する児童にとっては「安心」が担保され、落ち着いて学校生活を送ることにつながりました。

視覚的でわかりやすい月予定の掲示

カレンダーを月ごとに横並びに掲示することで、児童は学校行事等の見通しをもつことができ、安心感につながりました。カレンダーの横には各学級の週予定も掲示されており、児童は月予定も確認しながら、その日の学習予定を安心して決定することができました。



SSR(元気ルーム)の約束



横並びになった月予定

長浜市立神照小学校

学びの空間の工夫

限られたスペースを有効に活用できるよう、個人の机を設置せず長机を使用し、個別学習と協働学習のそれぞれの学習形態に対応することができるように工夫しました。

また、教室の一画には床上げされた三畳の畳スペースを設け、カーテンも取り付け、体調が優れない時や一人で気持ちを落ち着かせたい時等に休憩できるようにしました。そうすることで、休憩後自分のタイミングで再度学習に参加することができました。

ICT機器の活用

登校に不安を感じている児童との日常的なやりとりに、授業支援アプリであるロイロノート・スクールを活用し、その日の学校での出来事等をカードにまとめて送り、児童とコミュニケーションを図りました。児童はその日の出来事、学校の様子を知ることによって安心することができ、落ち着いて学校生活を送ることができました。

生き物の飼育

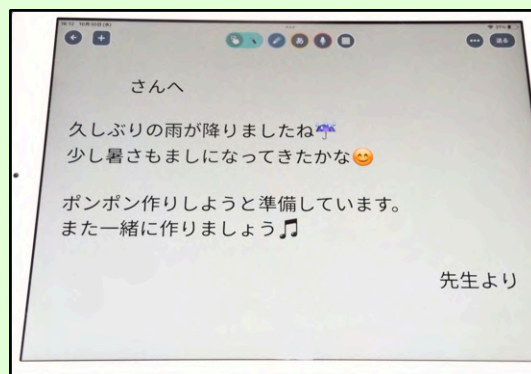
教室で鯉やメダカの飼育を行いました。飼育担当は決めていませんでしたが、水槽の洗浄やエサやり等を自主的に行う児童の姿が見られ、生き物を飼育することで登校に前向きになった児童もいました。



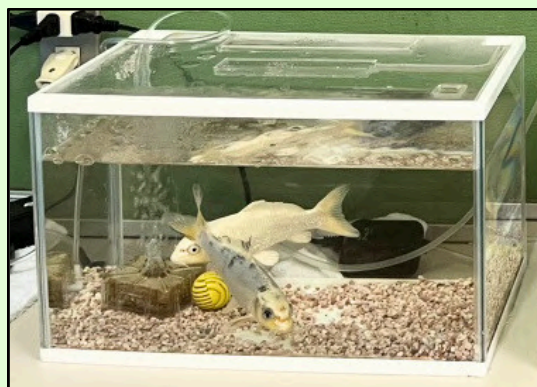
学びの空間の工夫



リラックススペース



ロイロノート・スクールを活用した児童とのやりとり



生き物の飼育

大津市立瀬田北小学校

児童の興味関心に合わせた環境整備

スポーツに興味がある児童のために、教室内に関連するスポーツの用具を準備しました。児童にとって安心できる場となり、継続登校につながりました。

当初は教室でスポーツのみを行っていましたが、次第に活動内容の幅が広がり、児童が自分で計画した学習内容に沿って活動できるようになりました。



使用したスポーツグッズ

③「周囲の理解」に関する支援 ～児童を支える体制の構築～

「周囲の理解」に関する支援では、教職員研修の実施や通信の配付等を通してSSRについての共通理解を図り、児童の情報共有や教職員間の連携に努めました。

守山市立河西小学校

教職員への通信の発行

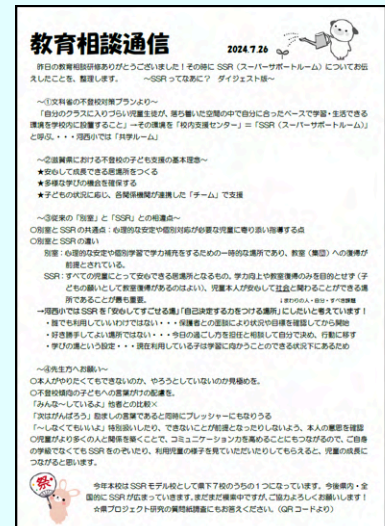
学校独自で作成した教職員向け教育相談通信にて、「SSRとは」「滋賀県の不登校の子供の支援に関する基本理念」「河西小学校におけるSSRの位置付け」についての記事を記載して配付し、教職員への啓発を図りました。

目につく場所への情報掲示

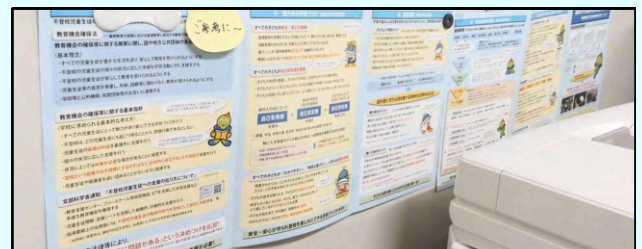
「滋賀の子ども達の社会的自立を支える 学校教員向け不登校の理解と対応リーフレット」(令和6年4月)を多くの教職員に知ってもらえるように、印刷室の壁に掲示しました。

SSRを利用する児童の情報共有

SSRを利用する児童についての理解、情報共有を図るため、全教職員へ積極的にSSRに足を運んでもらうよう、日常的な声かけを行いました。



教職員向け教育相談通信



啓発のために印刷室に滋賀県のリーフレットを掲示

彦根市立高宮小学校

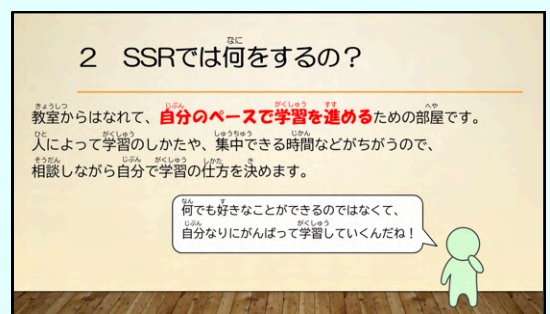
教職員研修と児童がSSRについて 学ぶ機会の設定

教職員研修会では、学校の実情に合わせて研修資料をSSR担当者が作成し実施しました。SSRの定義および別室との違い、不登校支援、SSRでの取組についての内容を中心に研修、協議しました。研修を受講した教職員からは、「昨年度までの別室とSSRとの違いが正しく理解できた」や「SSRは今の学校づくり、教育には不可欠な場所だと再認識した」などの声が挙がり、SSRの目的や意義について認識する機会となりました。

また、児童がSSRについて学ぶ機会として、説明スライドに音声をつけ動画にしたものを各学級で視聴しました。児童からは、「SSRがどこにあるか知っている」や「落ち着いて学べる場所だね」との声があり、SSRに対する理解が深まっている様子が見られました。



教職員研修の様子



児童に向けての説明資料

(本研究で作成したものを研究委員が再編)

3章 支援の道しるべ

今年度研究を進めた実践校でも、SSR運営に対して悩み、試行錯誤を繰り返しながら、実践を重ねてきました。本章では実践校の先生方の疑問や悩みとその解決のヒントについて、主なものを紹介します。なお、本研究の学びから得た知見を基にしており、必ずしも解決の方法について示すものではありません。児童のアセスメントを行ったうえで、支援を進める際の参考にしてください。



教室復帰という結果のみを目標としないとは言うものの、教師として教室で共に学んでほしいという思いがあるのですが…。

伴走者として児童を信じ、寄り添う気持ちを大切にしてもらえるとうれしいな



児童が一步踏み出せるように焦らず支援を続けていくことが重要です。エネルギーが十分に貯まるまでにかかる時間は人それぞれなので、児童の中の不安が和らぎ気持ちが前向きになるタイミングで、児童本人およびその保護者と相談して、教室復帰も一つの選択肢として検討していくこともあるでしょう。



SSRに来て静かに過ごしたい児童と、活動したい児童とが一緒になった時に、どのように対応すればよいのでしょうか？

児童の安心感を意識しながら、時には一緒に学ぶ機会を設定してみても



SSRを利用する児童の中には、大きな音が苦手な児童もいます。対策として、可能であれば部屋を分けることや利用する時間を調整すること、また複数の教職員で対応することなどが考えられます。しかし、「人とのつながり」の観点から、一緒に何かをする時間とすることも大切だと考えます。いつも特定の児童の動きに合わせるのではなく、「今回はAさんに合わせて、次はBさんに合わせようね」といった約束をして折り合いをつける場としたり、相手の気持ちを理解するためのSSTを行ったりすることも、社会的自立を見据えるうえで重要なことだと考えます。児童の安心感や納得感を意識しながら取り組むことが大事ですね。



SSRの居心地がよくなると、学級に居る児童も影響を受けて、自分もSSRを利用したいと言い出しませんか？

全校児童や保護者にSSRの意味を周知するのも一つの方法だね



SSRの役割については、利用する児童だけでなく全校の児童や保護者にも理解されることが重要だと考えます。目的外の利用がないように、児童や保護者の思いを十分に聞き取り、判断をしてみたいはかがでしょうか。

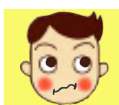


社会に出るためには、集団生活の経験をしておかないといけないのでは？

小集団で自信や経験を積み重ねていると考えてみてはどうか



SSRは大きな集団の中で自立をして生活するために、まずは小さな集団の中に入り、スモールステップでトレーニングを積む場所であると考えられます。性格や考え方の異なる人の中で、自己も他者も尊重し折り合いを付けたり助け合ったりしながら、よりよく生きていくために長期的な視点で成長を捉え、今はどの段階でどのような力を育てるのか、アセスメントしてプランニングを考えていくことが大切だと思われます。



本人の意思を尊重することは大切だと思いますが、自分勝手に過ごす児童が出てきませんか？

小さな社会の中で社会性を育む機会と捉えてみてはどうか



児童の成長にふさわしい場所がどこか、丁寧にアセスメントを行い保護者とも相談をしたうえで、支援のあり方について検討していくことが大切だと考えます。その中でSSRの利用が望ましい場合には、開始前に児童と保護者に、利用の仕方について確認をするとよいでしょう。

また、SSRの中で他の人と共に生活をするために必要なルールやマナーなどの社会性を学ぶことは社会的自立につながると考えられます。児童が社会性について考える絶好の機会と捉え、児童自身が考え次のステップへ進むための支援ができるものと考えられます。



どのようにしてSSRのルールをつくとよいのでしょうか？

学校や教職員の思いを伝え、児童・保護者の思いをすり合わせながらよりよいルールを決めていってはどうかな



SSRを利用する際に守ってほしいルールを学校で検討したうえで、児童と共にルールをつくり、改善していくとよいでしょう。ルールづくりに児童が関わることで、ルールを守ろうとする意識を高めるとともに、SSRの安心できる環境づくりにもつながると考えます。



悩んだときは一人で抱え込まず、 周りに相談して「チーム学校」で対応していこう！

SSRに関する用語集

本書で使用する用語についての説明です。

SSR(スペシャルサポートルーム)

校内教育支援センターのことで、学校には行けるけれど自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる部屋のこと。

アセスメント

チーム支援において、当該児童の課題に関連する問題状況や緊急対応を要する危機の程度等の情報を収集・分析・共有し、課題解決に有効な支援仮説を立て、支援目標や方法を決定するための資料を提供するプロセスのこと。

プランニング

アセスメントの後、具体的な対応策を検討し、関係者で確認のうえ、分担して実施し、実施後は振り返りを行い、次の対応策を検討すること。

SC(スクールカウンセラー)

公認心理師や臨床心理士、精神科医及び児童生徒の心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有する者のこと。

SSW(スクールソーシャルワーカー)

社会福祉士や精神保健福祉士等及び福祉や教育の分野において専門的な知識及び経験を有する者のこと。

SST(ソーシャルスキルトレーニング)

人が社会で生きていくうえで必要なスキルを段階的に学び、実践することで、より円滑な対人関係や社会適応を目指す効果的な訓練方法のこと。

「チーム学校」

校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校のこと。

サードプレイス

家庭と教室の間にある、児童にとって安心できる場所のこと。

COCOLOプラン(文部科学省 令和5年3月)、生徒指導提要(文部科学省 令和4年12月)等を参考に作成。

参考資料

○文部科学省

「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」 令和元年(2019年)
「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」 令和5年(2023年)
「生徒指導提要」 令和4年(2022年)
「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」 平成27年(2015年)

○滋賀県

「しがの学びと居場所の保障プラン」 令和6年(2024年)

○滋賀県教育委員会

「滋賀の子ども達の社会的自立を支える 学校教員向け不登校の理解と対応リーフレット」
令和6年(2024年)

○広島県教育委員会

「SSR(スペシャルサポートルーム)運営ガイドブック」 令和6年(2024年)改訂版

○岡山県教育委員会

「岡山型長期欠席・不登校対応スタンダード」 令和元年(2019年)

○埼玉県教育委員会

「一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック
～総合的な長期欠席・不登校対策～」 令和6年(2024年)

○岐阜県教育委員会

「小・中・義務教育学校における 学校内教育支援センターの運営
～誰一人取り残されない学びの保障のために～」 令和5年(2023年)

○京都府教育委員会

「不登校児童生徒支援ハンドブック～社会的自立に向けた不登校児童生徒支援について～」
令和2年(2020年)

○徳島県教育委員会

「段階別 不登校対応ハンドブック(改訂版)」 令和4年(2022年)

○東京都教育委員会

「児童・生徒を支援するためのガイドブック～不登校への適切な対応に向けて～」
平成30年(2018年)

○鳥取県教育委員会

「不登校の理解と児童生徒支援のためのガイドブック あしたも、笑顔で」 令和2年(2020年)

○「わくわく教材ランド」<E-KYOZAI.COM>

研究の詳しい内容につきましては、
滋賀県総合教育センターHP
「センター研究成果情報」より
御確認いただけます。

なお、研究の性質上、本研究成果物の
閲覧には各校に配付されているID
とパスワードが必要です。

滋賀県総合教育センター
Shiga Prefectural Education Center

文字サイズ 標準 大 サイト内検索 検索

センター紹介 研修受講者へ 教育学習情報 学校等支援 教育相談 諸君等の様式

第67回研究発表大会 令和7年2月14日(金)開催
大会テーマ 「子どもが主体の授業」を実現する教職員の探究的な学びを目指して
特別講演 「AI時代における教育の未来」 荒瀬 克己 氏
第67回研究発表大会について

新着情報 新着情報一覧へ

研究成果・教材・コンテンツ等

センター研究成果情報
最新情報です！ぜひ活用ください！
研究論文 研究成果物
研究成果情報…センター
で行ってきた教育研究の
成果をご覧いただき、授
業等に活用ください。

Plant
全国教員研修プラットフォーム (Plant)

ガッテン!アビリティ
全国教員研修プラットフォーム (Plant)

ガッテン!アビリティ…
人ひとりの能力に応じた
学びの定着を図る学び
直しプリント集です。

春休み児童学習
春の子ども
新学期に向けて、子ども
たち自身で学び直しがで
きるプリント集(令和5
年度版)です。

令和7年(2025年)2月発行
「チーム学校」で取り組もう！SSR
【編集】 滋賀県総合教育センター
(担当：情報教育係)
〒520-2321 滋賀県野洲市北桜
TEL077-588-2311
ホームページ
<https://www.shiga-ec.ed.jp>



